

# HP を活用した授業情報一元管理の効果と課題

大阪インターナショナルスクールの日本語教室から

原 和久  
日本語科

## 1. はじめに

インターネットの普及に伴い、学校現場においてもホームページ(HP)を作成し情報の発信を試みる実践が行われるようになってきた。しかし、ホームページ作りが一過性のイベントとしてとらえられ、学期や年度が変わっても新しい情報に更新されず放ったままになっている学校も多く見られる。本論文では、教師、生徒、保護者間のコミュニケーションを改善するためにインターネットをどのように活用していくかという観点から、ホームページを利用した授業情報一元管理の実践を紹介し、その教育的効果と今後の課題について考察したい。(1)

## 2. 学内の情報機器環境と HP 開設の経緯

筆者の勤める「千里国際学園」は、外国人生徒を対象とする「大阪インターナショナルスクール(OIS)」と帰国生徒を中心に日本の普通教育を行う「千里国際学園中・高等部(SIS)」の二つの学校で構成され、多言語・多文化学習環境を実現するために同じ校舎内で様々な活動に共に取り組んでいる。(2)本学園は1991年の設立時より情報教育にも力を入れており、大阪府の助成を得て97年に70台のPCを購入すると共にLANを敷設、2002年にThin Clientを採用するなど徐々に学内のPCを増やしながら情報インフラを整備してきた。その結果、現在では学内の150台以上のPCはすべてLANで結ばれ、日英の言語に対応したパイリングル・サーバーによって、外国人生徒や帰国生徒でも言語の支障なくイントラ及びインターネットにアクセスすることが可能になっている。(図1、図2)

このように学内のインフラが整いシステムが安定してきたことを受けて、次に学園の課題とされたのは、生徒の学習に生かすネットワークの活用法を探ることであった。すなわち、コンピューターを授業に生かすソフト面での工夫が個々の教師に求められたのである。(3)筆者は、本校において主に外国人生徒に対する日本語教育を担当しているが、すでにほとんどの生徒が国際間の連絡の必要性から、家庭でEメールやインターネットを使用している。学内ネットワークの整備とインターネットの利用は、家庭での急速なネット接続環境の普及を追い風にして、言語教育の分野においても大変魅力的な教育手段となるのではと思われた。そこで、それらの有効な活用法を探るために、まず担当日本語コースのウェブ・ページを開設することを思い立った。HTMLの作成には、マイクロソフト社のFrontPageを使い1998年秋にまず一コースを試作、試験的に運営しながら作業を進め2000年夏までに担当する五コース全部のウェブ・ページを順次作成した。その後、改善を重ねながら内容を拡充し、2001年度夏にすべてのページを統合する日英の言語によるホームページ<Hara Sensei's Home Page>を完成させることができた。(4)



図1 インターネットを活用した授業の様子



図2 学内のコンピューター室

### 3. HP開設のねらい

本校の日本語教育はいわゆる第二言語教育であるが、出来るだけイメージの環境を実現するために、教授内容はもちろん教師の指示も媒介語（英語）や学習者の母語を使わず日本語だけで行うよう心がけている。日本語のみの直接法による教授は言語学習としては有効な方法ではあるが、生徒が教師の指示を本当に理解したかどうか確認が難しいため、ともすれば生徒とのコミュニケーションが曖昧なものになってしまう可能性が高い。宿題やテスト日程などの大切な情報がしっかり学習者に理解されず保護者にも伝わっていないこともあり、「言った、言わない」でもめることが過去にはあった。また、中には自分の持ち物を管理できない生徒もあり、教師が配布した資料（年間計画、シラバスなど）をなくしてしまって、保護者に大事な情報が伝わっていないこともあった。

このような状態を改善するために、インターネット上に「シラバス」、「年間計画」、「宿題」、「テスト日程」などの授業関連情報を媒介語（英語）で掲載することを思い立った。教室での日本語イメージ環境を維持しながらも、後で教師の指示を確認できるシステムを確立することで、学習言語の曖昧性に起因するコミュニケーションのすれ違いを解消できないかと考えたのである。たとえ生徒が大切な情報をクラスで理解できなかったり、忘れたり、プリントを失くしたりしても、後で確認できるように、そして保護者にもしっかり情報が伝わるようにしたい、というのがホームページ開設の当初のねらいであった。

### 4. HPへの情報掲載の効果

ホームページの開設には試行錯誤を繰り返したが、全ての情報をネット上に一箇所に掲載したことへの効果はすぐに表れてきた。驚いたことに、従来どおりのやり方で資料を配布したクラスと比べて、インターネットに情報を掲載し指導したクラスでは、上記の問題を完全に解消出来ただけではなく、授業時間以外での教師への質問が増えるなど生徒の学習への取り組みの姿勢も大きく変わってきたのである。つまり、ホームページによる情報発信は教師から学習者への一方向の連絡を可能にするだけでなく、双方向のコミュニケーションを改善・促進する大変有効な手段だと思われたのである。また、生徒のみならず保護者に対してもインターネットを活用してもらうことで、学校に対する関心を高め参加を促す事が出来るのではないかと感じられた。そこで、2002 - 03 年度はホームページを「教師 - 生徒 - 保護者」間のコミュニケーションを促進するデジタル・ツールとして改めて明確に位置付け、さらに今までにない情報や機能を付加しその活用法を体系的に探ることにした。また、宿題などの情報を日々更新し、2003 年6月末に生徒と保護者に対してアンケート調査を行いホームページ活用の有効性を調べることを自己研修の年間目標とした。

### 5. ホームページを構成する要素

2002 年度にリニューアルしたホームページには、下記の「基本情報（ホームページのトップページ）」と各個別コースの情報を開示したページに加え、今までにないいくつかの新しいエリアを設けた。ここでは、2つのエリア（「スタディーセンター」と「生徒作品のデジタル・ポートフォリオ」）について取り上げ紹介したい。

#### 5.1. 基本情報の提供

サイトのホームとなる最初のページは最上部にタイトル<Hara Sensei's Home Page>を置き、その下を四段組とした。そして、4 段組の中央二列のスペースに初めて HP を訪れた人のために「Welcome Remark」を載せ、続けて HP の目的、使い方など最も基本となる情報を掲載した。また、「コースについて」、「生徒作品」、「教育実習情報」、「ボランティアの募集」、「生徒の活動の様子」、「研究論文と自己研修」などの情報へもここからアクセスできるように項目別にリンクを配置した。最左列には、すぐに目的とする情報にたどり着きたい人のために、「各コースのトップページ」へのリンクなどリンクの一覧を載せリピーターへの利便性を高めた。また、ホームページの最左列上部にはカウンターを設置し、毎日何人の生徒（保護者）が実際にアクセスしているか、およその数を教師の側で把握できるようにした。また、日本語のみしか理解しない保護者のために日本語に翻訳したページへのリンクもページ最右列上部に用意した。（図3）

#### 5.2. 個別授業情報の提供

ホームページ上に書かれている各コースの名称をクリックすると、ハイパーリンクで筆者が担当する五つのコースのトップページに行く事が出来る。生徒や保護者はそこで自分の履修しているコースの詳細を知る事が出来るようにした。各コースのトップページには、「コースディスクリプション」、「シラバス」、「年間計画」、「宿題・課題一覧表」、「テスト範囲と日程」、「評価の基準」、「授業スケジ



図3 <Hara Sensei's Home Page> Top Page



図4 各担当日本語コースの Top Page



図5 スタディーセンター

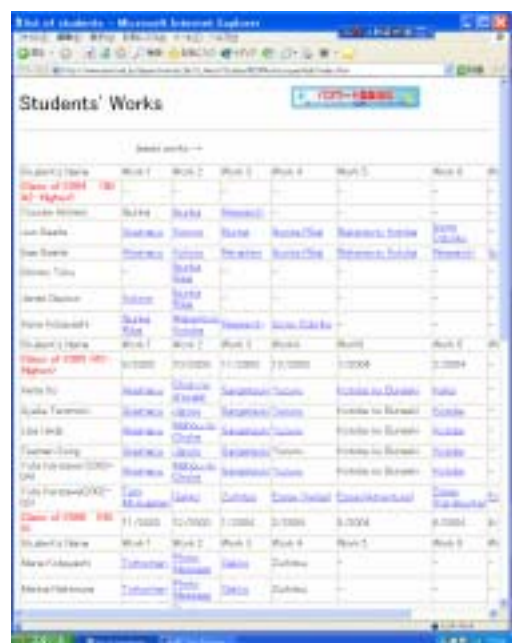


図6 デジタル・ポートフォリオ

ジュール」など授業に直接関係のある情報へのリンクを載せた。また、生徒がコンテストなどで入賞したときには、各コースのトップページだけでなく、全体のホームページでもアナウンスしたり、活動の様子がわかる写真をのせたりした。学年を超えて他のコースでどんな学習をしているのか、生徒や保護者に日本語プログラムをトータルに把握してもらうためである。(図4)

### 5.3. スタディー・センター(個別学習環境の構築と動機付け)

インターナショナルスクールにとって保護者の仕事の都合で年度途中で転入してくる生徒への対応は悩みの種である。生徒の未習事項は、担当教師が補習授業をするなどして補わざるを得ないが、実際そのような生徒を他の生徒に追いつかせるのは至難の業である。そこで、生徒間の言語差を少しでも縮めるために、インターネットで開設されているフリー教材やレッスンへのリンクを集め生徒が自由時間や放課後、あるいは長期休暇中に自主的に学習できるようなエリア(スタディ・センター)をホームページ内に設けた。個別自主学習環境を構築し、生徒の動機を高めることで、生徒間のレベル差を和らげることが目的である。スタディーセンターは現在も開発中であり、さらに充実させていく必要があると考えている。(図5)

### 5.4. デジタル・ポートフォリオ(生徒作品の保管とネット上の公開)

エッセイなどの生徒作品は、ドラフトは鉛筆で書かせ、最終的な仕上げはワープロでタイプしてEメールで提出するように指導した。そして、提出された作品はFrontPageでHTML言語に変換し一種のデジタルポートフォリオとして「生徒作品」のエリアに掲載するようにした。生徒作品を掲載したエリアには生徒のプライバシーを守り悪用を防ぐためのパスワードを設定し、コースを受講している生徒と保護者しかアクセスできないようにした。従来の紙のポートフォリオと比べて、デジタルポートフォリオでは、デジカメの写真やカラーの作品なども比較的容易に記録することができる点がメリットである。また、ホームページで公開することでクラスや学年を超えて生徒間で読みあい、相互評価するといった活動も可能になる。また、紙のように劣化がなく前年度までの記録を鮮明に残すことも比較的容易になるため自分の言語的な成長を作品を通して確認することも出来る。保護者にとっても、自分の子供がだんだん文字を書けるようになる様子を作品を通して見る事が出来るということは、励ましになるにちがいない。デジタル・ポートフォリオは、卒業・転校時に記念として、また成長の記録として、友達全員の作品と共にCD-ROMにコピーし生徒に手渡している。(図6)

## 6. 教育効果

ホームページの活用法を探るために様々な新しい方法を試みたが、ここで筆者自身が体験的に実感した教師にとってのホームページの利点を箇条書きでまとめてみたい。その多くは、日本語教育以外の教育分野についてもあてはまるものが多いのではないと思われる。また、ホームページの利用はe-mailや携帯電話・携帯メールなど他のテクノロジーとの併用によって、その良さが最大限に発揮されるように思われた。

- a. 一日、わずか15-20分程度の入力で、最新の情報を生徒や保護者に明確にかつタイムリーに伝える事が出来るようになった。
- b. 生徒の進度によってシラバスや年間計画が年度途中で変更になった場合にも、新しい情報をコピーして生徒・保護者に渡す必要がなくなった。その結果、紙の無駄遣いを減らすことが可能になった。
- c. 病気などで学校を休んだ生徒にも、個別に電話連絡をしなくても授業情報やその日の宿題が伝わるようになった。
- d. 成績表や中間報告書などの文書では伝わりにくい写真などの視覚的な情報も保護者に伝える事が出来るようになった。
- e. 生徒間の言語差が激しい多言語多文化クラスにおいては、はっきりした評価基準を示すことがとても重要であるが、HPの活用でそれらを明確に生徒・保護者に伝える事が出来るようになった。
- f. どんな宿題を出したか、記録を残す事が容易になり、生徒や保護者の質問への対応もスムーズに行う事が出来るようになった。また、適切な宿題を適切な量で出しているか、言語の4技能(スピーキング、ライティング、リスニング、リーディング)に偏りはないかなど、客観的な自己モニターが可能になった。
- g. 日本語学習に加えて、生徒のコンピューターリテラシーの向上にも役に立った。
- h. 生徒のみでなく、JSLの保護者に対しても日本語の自主学習に役立つサイトを紹介できるようになった。

- i. 上記のような工夫によって、保護者にクラスでの日本語学習に興味・関心を持ってもらい家庭での学習支援を一層促す事が出来るようになった。
- j. 関心を持った保護者が、より積極的にボランティアなどの形で、教育活動に参加するようになった。
- k. インターナショナルスクールは世界各国から入学者を迎えるが、入学希望者に、どんな日本語教育を行っているか事前に知らせる事が容易になった。
- l. インターネットを使用した学校 - 家庭間のコミュニケーションの充実は SARS などの感染症が発生したときの危機対策としても有効であると思われた。万一、学校が休校になっても、普段から連絡がスムーズにとられ自宅学習ができる体制が整えられていれば、それがそのまま危機対策にもつながるからである。(5)

## 7. 生徒・保護者へのアンケート調査

### 7.1. 調査の目的と方法

ホームページの活用は、生徒や保護者に対してはどのようなメリットをもたらすのだろうか？そのことを探るために筆者は 2002 - 03 年度の学年末である 6 月中旬に筆者のクラスに在籍する 5 年生から 11 年生までの生徒 34 名（表 1）、保護者 29 名に対して簡単なアンケートを送付した。(6) アンケートは日本語のものと英語のものを用意し、生徒や保護者の答えやすい言語で解答してもらった。生徒に対しては授業の時間を使って回答してもらったので回収率は 100% となった。担当するクラスの生徒の人数及び日本語学習暦の概要は次の通りである。保護者に対しては、すでに E メールを使用している保護者に対してはメールで、そうでない保護者には生徒を通して書面でアンケートを依頼したが、29 名中 21 名（21 家族）から回答を得た。回答率は 72.4% であった。(7) 尚、保護者の人数が生徒の人数より少ないのは、兄弟や姉妹で筆者のクラスを履修している生徒が 5 組あるためである。

表 1 2002 - 2003 年度 担当日本語コース

	五・六年生合同クラス	七・八年生合同クラス	十年生のクラス	11年生のクラス
日本語のレベル	中級	中級	上級	バイリンガル
日本での滞在年数	2～3年	3～4年	5年以上	読み書きともにバイリンガル。日本で生まれたり、日本の学校に通ったり日本での生活が長い。
生徒の特徴	日本語を始めてまもない生徒。両親の仕事の都合で日本に来ている。	日本語での簡単な会話ができるぐらいの日本語力。	会話はバイリンガルだが読み書きが弱い生徒が多い。	
人数	8人 (男子2/女子6)	10人 (男子7/女子3)	11人 (男子4/女子7)	5人 (男子2/女子3)

### 7.2. アンケートの内容

アンケートでは、まず家庭でインターネットや E メールが使えるかどうか、E メールを毎日チェックしているかどうか、<Hara Sensei's Home Page> にアクセスしたことがあるか、といった基本的な事柄について質問した上で、ホームページを教育に活用することのメリットについていくつかの質問に答えてもらった。具体的には、ホームページ活用の利点をいくつか筆者の方で想定しあらかじめリストアップした。そして、下記のような項目にまとめ、それぞれの項目に対して「同意する」 - 「どちらでもない」 - 「同意しない」の 3 つのスケールで回答を求めた。今回のアンケート調査の中心となる部分は、それら一つ一つの項目に生徒や保護者がどれだけ同意するか（同意率）を調べたものである。また、アンケートには最後に自由解答欄も設けた。筆者の側で想定していないホームページの活用法や、一年間利用してみた感想などについて自由に記述してもらうためである。また、<Hara Sensei's Home Page> にアクセスしたことがないと答えた生徒には、なぜアクセスしなかったのか答えてもらった。

### 7.2.1.生徒にとってのメリットであると考えられる項目

生徒にとってのメリットとして、下記の4項目をあらかじめ設定した。

- 校内・学外のどこからでも、勉強したいと思ったときにすぐに情報にアクセスして学習活動に結びつける事が出来る。
- 宿題が何か忘れたときでも、教師に聞かなくても自分で調べる事が出来る。
- 友達の作品を読みお互いに励ましあう事が出来る。また、自分の作品を書くときの参考になる。
- 作文などの評価基準を前もって知ること、教師に作品を提出する前に、作品の質を高めることができる。

### 7.2.2.保護者にとってメリットであると考えられる項目

保護者にとってのメリットとしては、下記の6項目をあらかじめ設定した。

- 教室でどんな学習が行われているか知る事が容易である。出張先や旅行先からでも時間のずれなく、子供の学習をモニターすることができる。
- 子供の自立を尊重しながら、学習の様子をうかがう事が出来る。(知らないふりをしながら、子供をそっとサポートすることができる)
- 教室での学習にあわせて、テストの日程などを明確に把握することで、家庭での子供の学習をサポートすることができる。また、e mailを使えば、手軽に教師に質問することもできる。
- 配布物を子供がなくなってしまっても教師には話しづらいときでも、必要な情報にアクセスすることができる。
- 家にいながらにして、エッセイなどの子供の作品を読むことができるのは便利である。
- 教師、プログラム、カリキュラムのトータルな把握を可能にする。また、教師の研究活動などクラス外の活動の詳細を知ることができる。

## 7.3 アンケート調査の結果

### 7.3.1.生徒に対する調査の結果

アンケート調査の結果、筆者が担当している5年生から11年生までの34人の生徒全員がインターネットやEメールを家庭でも使用している事が改めて確認された。そのうち、家庭でEメールを(ほぼ)毎日チェックしている生徒は、23人(68%)おり、29人(85%)が授業以外でも<Hara Sensei's Home Page>にアクセスしたことがあったと答えた。

ホームページ活用のメリットについてのa～dの質問に対する生徒の回答は表2のようになった。

表2.

	同意する	同意しない	どちらでもない	同意率
問 a	21	3	5	72.4%
問 b	27	1	1	93.1%
問 c	16	5	8	55.1%
問 d	17	2	10	58.6%

また、<Hara Sensei's Home Page>に対して自由に記述してもらった欄には、論文末の資料1のようなコメントが見られた。

### 7.3.2.保護者に対する調査の結果

アンケート調査の結果、回答があった21人の内18名が家庭でインターネットに接続しEメールを使用できる環境にあった。その内Eメールを(ほぼ)毎日チェックしている保護者は17名であった。また、残念ながら<Hara Sensei's Home Page>に定期的にインターネットでアクセスしてクラス情報を確認している保護者はわずか10名(34.4%)しかいなかった。それら10名の保護者に対して行ったホームページ活用のメリットについての質問(項目a～f)では、表3のようにいずれの質問に対する同意率も80%以上という高い数字になった。保護者にも自由回答欄を設け<Hara Sensei's Home Page>に対する感想と要望を書いてもらったが、論文末掲載の資料2のような声を聞く事が出来た。

表 3

	同意する	同意しない	どちらでもない	同意率
問 a	9	0	1	90%
問 b	8	0	2	80%
問 c	10	0	0	100%
問 d	9	0	1	90%
問 e	8	0	2	80%
問 f	10	0	0	100%

## 8. アンケート調査の結果分析

上記の調査結果より、筆者が担当している 34 人の生徒については比較的活発にホームページを活用している様子が伺われた。自由解答欄を見てみると、特に 7 年生から 10 年生までの生徒がインターネットを積極的に使おうとしているように見受けられた。小学 5、6 年生は、ホームページに興味を示しながらも「インターネットの活用法について」という問いにはあまりアイデアが浮かばなかったようだ。インターネットを使うとどんなことが可能となるのか、まだ積極的に理解していない様子が伺われる。日本語の授業の中での使用はもちろんだが、クラス担任や保護者とも協力して学校、家庭を問わずもっとインターネットに親しみをもたせることが大切ではないかと感じられた。一方 7 年生以上の生徒になるとインターネットへの理解も深まってくるようだ。自由回答欄でも比較的積極的に回答しており、自分の意見を持ってインターネットを積極的に利用し、自己の学習支援に利用している様子が伺われる。生徒の意識の中に、最新のテクノロジーを積極的に使って学習の成果をあげようとする態度が育っているといえよう。特に問 b の回答から、生徒達がホームページにアクセスする主な動機が、日々の宿題のチェックにあることが明らかになった。しかし、問 c、問 d の同意率の低さ（それぞれ 55.1%、58.6%）に見られるように、他の生徒の作品を参考にしたり評価基準を参照したりする高度な技術はまだ十分に身につけているとはいえないようである。その点で、教師が期待しているホームページのメリットを生徒達が十分に理解しているとは言い難い。これについては、友達の記事を読みあつたり、評価基準表を使って自分の作品を自己採点してみたり、ホームページだけではなく授業時間も使って活用法を指導していく必要があるのではないかとと思われる。

自由回答欄では生徒の要望も尋ねたが、中でも「生徒個人の成績を見る事が出来るようにしてほしい」という要望が多かった。全員に共通する授業情報に加えて、より個別の情報を求めている生徒が多いことがわかる。個別情報の開示は技術的にはそれほど難しいことではないが、セキュリティーの心配もありこれまで踏みとどまってきた。一般的に言って、高セキュリティーを求めると高コストは避けられず、コストを押さえようとするとセキュリティーの面で不安が残るという構図になっているようである。一つの解決策として、今後は民間の有料サービスも視野に入れながら各種の教育インターネットサイト(Web-based educational group ware)を組み合わせることで、コストを押さえながらセキュリティーを維持、強化していく必要があるかもしれない。基本的な授業の情報を提供する部分は自己開発しながらも、成績管理・閲覧などプライバシーに関わるページにはセキュリティーの高い外部のサービスを一部取り入れることで低コストに押さえることが出来るのではないかと考えている。(8)

ところで、今回の調査で <Hara Sensei's Home Page> に実際に家庭からアクセスしたことがあると答えた保護者は全体の 34.4% (10 人) と低い数字にとどまったが、その内 10 人は上記問 a ~ f の質問にいずれも 80% 以上の同意率で回答している。アンケートに回答しなかった保護者が、どのような理由で解答しなかったのかがはっきりしないため正確なところは分からないが、10 人の回答を見る限り、よくインターネットや E メールを使用している保護者ほど、それらの教育への活用についても理解度が高いと言う事は出来るであろう。ただ、自由解答欄からも見てとれるように、10 人の保護者全員が <Hara Sensei's Home Page> を使いこなしているわけではなく、「(更新していることも含めて) HP について知らなかった」「アクセスできなかった」といった率直な意見もいくつかみられた。アンケートに答えなかった保護者も、たぶんそのような理由によってアンケートに回答しなかったのではということが推測される。筆者は、本論文第 4 節で「生徒のみならず保護者に対してもインターネットを活用してもらうことで、学校に対する関心を高め参加を促す事が出来るのではないかと感じられた」と書いた。しかし、調査の結果ホームページによる情報の一元化はインターネットや E メールに強い一部の保護者に対してはメリットがあり日本語クラスへの関心と参加の意識を強めてはいるものの、それ以外の保護者に対してはまだ認知度、利便性ともに低いことが明らかになった。

ある意味で、インターネットやEメールの導入によって、それらのテクノロジーを使って積極的に教師とコミュニケーションをとろうとする保護者と、そうでない保護者の二極化が起こっているのだとも考えられる。一部の保護者だけでなく、インターネットをあまり使用していない保護者にもクラス活動に積極的に関わってもらうためには何が必要か、今後の課題として検討していく必要があると思われる。

## 9. まとめと今後の課題

テクノロジーは生徒の学習や保護者とのコミュニケーションの向上に大きく貢献する可能性を秘めている。特にインターナショナルスクールのような多文化・多言語環境に置いては、授業情報の明確化と一元化が生徒の学習意欲を引き出す有効な手段に成り得ることが、今回のホームページを活用した実践とアンケート調査によって明らかになった。しかし、保護者とのコミュニケーションについては、テクノロジーに強い一部の保護者を除いては明らかな改善がみられたとは言えず、今後も検討を加えていく必要性が感じられた。

今回の研究報告はホームページに焦点を絞ったものであったが、今後はE Mail や携帯電話、またWeb-Based Group Ware など他のIT技術の利用法についても考察を深めながら、様々なデジタル・ツールの教育への応用の可能性を探っていきたいと考えている。また、それらのデジタル・ツールのもたらす教育的効果を日本語教育の実践とアクションリサーチを通して様々な角度からより深く調査し検証していく必要もあるだろう。今後の課題としたい。

### <注>

- (1) 本論文は、2003年8月に開催された日本情報教育学会第19回年会での発表論文に、アンケート調査の集計を踏まえ加筆修正したものである。
- (2) 大阪インターナショナルスクール(K12)は9月始まり、千里国際学園中等部・高等部は4月始まりである。学園内の教授言語はOISでは英語、SISでは日本語が主に使用されているが、音楽、体育、芸術などは、両校合同クラスで英語で授業が行われている。
- (3) 本校では、毎年年度始めに教師自身による自己研修として年間目標(Professional Development Goal)を設定し校長に提出することになっている。一般的に年間目標は、カリキュラム開発、教授法、クラスマネジメントなどについて設定されるが、近年「テクノロジー」についても意識を高め技能を改善するための目標を記すことが求められるようになった。
- (4) <Hara Sensei's Home Page>のURLは下記の通りである。  
<http://www.senri.ed.jp/Departments/JSL/JLHara/index.htm>  
尚、OIS日本語科のプログラムについての一般的な情報は、次のURLを参照されたい。  
<http://www.senri.ed.jp/departments/jsl/>  
また、筆者が担当する授業についての詳細は下記の拙論も参照されたい。  
原和久(2003)「インターナショナルスクールにおける上級日本語教育の試み」『研究紀要』第8号、学校法人・千里国際学園, pp.95-125.
- (5) また、ホームページを開設したことで、国内はもとより海外の日本語の先生方からもカリキュラムや指導法についてよく質問がくるようになった。意図しなかったことだが、結果として国内・海外の先生方とのネットワークづくりにもつながった。
- (6) 12年生は、調査時点ですでに卒業していたため今回の調査対象には加えなかった。また、保護者の数が、生徒の数より少ないのは、兄弟ともに筆者のクラスを履修している生徒が5組あるためである。
- (7) アンケートは保護者に対しては6月15日に発送したが、6月中旬からすでに仕事の都合で本国に帰国してしまった家族もあり、このことが低い回収率の一因となった。
- (8) 2003年9月より、11年、12年生については<Hara Sensei's Home Page>にリンクされた成績管理のための有料サイトで自分の成績を参照することができるようにした。ネット上で生徒の成績を管理するWeb-based educational group wareには、いくつか代表的なものがあるが、セキュリティと価格の面を考慮して現在は成績管理・閲覧に特化した有料の民間サービスである「MyGradeBook.Com」を利用している。<MyGradeBook>は、アメリカの出版社であるPearson Educationの下位部門であるteachervision.comによって運営されている。  
<http://www.mygradebook.com/>



<参考文献>

Blanchard, Jay. (1998). *The Family-School Connection and Technology*. Proceedings of the Families, Technology, and Education Conference, Chicago, IL. (ERIC Document Reproduction Service No. ED 425018.)

Retrieved June 1, 2003 from the World Wide Web:

<http://ericece.org/pubs/books/fte/links/blanchard.html>

Bauch, J. P. (1998). *Applications of technology to linking schools, families, and students*. Proceedings of the Families, Technology, and Education Conference, Chicago, IL. (ERIC Document Reproduction Service No. ED 425017).

Retrieved June 1, 2003 from the World Wide Web:

<http://ericece.org/pubs/books/fte/links/bauch.html>

Lunts, Ellen (2003). *Parental Involvement in Children's Education: Connecting Family and School by Using Telecommunication Technologies*. Meridian, Volume6, Issue2, Summer2003.

Retrieved June 1, 2003 from the World Wide Web:

<http://www.ncsu.edu/meridian/win2003/involvement/8.html>

朝尾幸次郎・斎藤典明 編 (1996) 『インターネットと英語教育』 (英語教育 96.11 別冊), 大修館書店

鈴木佳苗 (1999) 「インターネットを利用した外国文化・外国語学習」 『NEW 教育とコンピューター』 学研, 99年8月号, pp.60-61

原和久 (2003) 「ホームページを活用した授業情報一元化の試み」 『日本教育情報学会 年会論文集 19』 日本教育情報学会事務局, pp44-47

## 資料1 <Hara Sensei's Home Page> に対する、生徒のコメントと要望

### コメント；

- ・ 宿題が何か忘れたときに、(HPは)とても役に立ちました。そのおかげで成績が上がったと思います。(Gr.7 男子、他)[E=オリジナルの回答は英語]
- ・ 宿題の配点や締切日が分かったのがよかった。(Gr.7 男子、他)[E]
- ・ 友達の作文を見て学ぶ事が出来るのはいいと思いました。(Gr.7 男子)[E]
- ・ 漢字テストの範囲が分からなくなったときに、HPでチェックできたのは良かった。(Gr.7 男子、他)[E]
- ・ 私自身は、あまり必要なかったけれども、クラスにとってはあったほうがいいものだと思う。(Gr.7 女子、他)[E]
- ・ とても便利でいいと思いました。分からない事が載っていて、生徒からするととてもありがたいことだと思います。特に休日をはさんで月曜日がテストの時など(宿題が何か忘れても)ちゃんと勉強が出来ました。(Gr.10 女子)[J=オリジナルの回答も日本語]
- ・ 全体的に見やすいHPで、役に立ったのでよかったと思います。(Gr.10 女子)[J]
- ・ 転校して初めてこの学校に来たのですが、ホームページにクラスのルールや履修の条件などがちゃんと説明してあったので役に立ちました。(Gr.10 男子)[J]
- ・ 私にとっては、HPで調べるよりも電話で友達に聞くほうが、まだまだ早いです。(Gr.10 女子)[J]
- ・ HPは便利だけど、(インターネットに接続すると)ほかのことがやりたくなくなってしまうのがデメリットです。(Gr.10 女子)[J]
- ・ よく宿題が何か忘れられてしまうので、PCをよく使う僕としてはとてもありがたかったです。それに、欠席してもすぐチェックできて授業にあまり遅れない点もとても良いと思います。(Gr.10 男子)[J]風邪で学校を休んでも、わざわざ友達に聞かなくても宿題がわかって良かったです。(Gr.10 女子)[J]
- ・ 先生の成績のつけ方が分かったのが良かったと思います。現在のだいたい成績が自分で調べられるのも良かったです。(Gr.10 女子)[J]
- ・ 作文など、いいアイデアが浮かばないときに(友達の作品を読んで)参考にしました。(Gr.11 男子)[J]
- ・ レイアウトがわかりやすく、クラスごとに分かれているのが使いやすいと思いました。(Gr.11 女子)[J]
- ・ いろいろなところが工夫されていて面白いと思いました。(Gr.11 女子)[J]

### 要望；

- ・ 宿題の一覧を表示するだけでなく、生徒個人の成績や未提出物がわかるようなページを作ってほしいです。ただし、その場合、自分以外の人が見る事が出来ないようにパスワードで保護されたページにしてほしいです。(Gr.8 男子、他)[E]
- ・ ホームページ表示時間をもっと早くなるように改善してほしいです。(Gr.8 女子)[E]
- ・ 漢字のワークブックを学校に忘れたときでも勉強できるように、漢字のページをホームページで見ることが出来るようにならないでしょうか？(Gr.8 男子、他)[E]
- ・ 漢字ゲームなど、ゲームを通して日本語の学習が出来るページがあるといいと思う。(Gr.7 男子)[E]
- ・ 先生が過去に担当したクラスのクラス写真があってもいいかも。(Gr.10 女子)[J]
- ・ やさしくてわかりやすい日本語で書かれた日本のニュースを載せてほしい。(Gr.10 女子)[J]
- ・ インターネットの各種・辞書サイトへのリンクがあったら便利だと思う。(Gr.11 女子、他)[J]
- ・ BBSがあつたらいいと思います!! (Gr.10 女子)[J]
- ・ もっとインターネットで調べものをしたいです。(Gr.10 女子)[J]
- ・ 漢字の練習シートをなくした時のために、HPに掲載されているといいかと思えます。(Gr.10 男子)[J]
- ・ 僕は普段、インターネットで漫画を読んでいます。これは、楽しみのためですが、日本語の勉強にもなります。HPにも、楽しみながら日本語を勉強できるページがあるといいと思います。(Gr.10 男子)[J]
- ・ (生徒作品へのアクセスに)パスワードはつけないで!! どうせ忘れるし面倒くさい。(Gr.10 女

子)[ J ]

- ・ 試験の後、解答をHPに載せてもいいかと思いました。(Gr.11 男子)[ J ]

#### <Hara Sensei's Home Page> にアクセスしなかった生徒の理由；

- ・ 宿題が何かはクラスで指示があるので、特にHPでチェックする必要はなかった。(Gr. 7 女子、Gr.8 男子、Gr.10 女子、Gr.10 男子、それぞれ1名ずつ。)[ E & J ]
- ・ ホームページがあることを知らなかった。(Gr.10 男子、1名)[ J ]

#### 資料2 <Hara Sensei's Home Page> に対する、保護者のコメントと要望

##### コメント；

- ・ いつ試験があるか分かるので役に立ちます。娘が試験の前に勉強しているかどうか知る事が出来てよいと思います。(Gr.5 保護者、他)[ E = オリジナルの回答は英語 ]
- ・ (HPの情報があると)子供のことで何か相談したいときに、問題を明確にする事ができ、先生とコミュニケーションしやすくなると思います。(Gr.5 保護者、他)[ E ]
- ・ クラスのなかでどんな活動をしているかを理解するのに役に立った。特にカリキュラム、宿題、毎週の漢字テストのページは役にたった。(Gr.7 保護者、他)[ E ]
- ・ 子供が時折「この漢字の読みを教えてください」と持ってきて見せる難しそうな語句がならんだプリント。先生のサイトを見ると、こういう授業の一コマなのね、とわかってよいです。(Gr.10 保護者、他)[ J = オリジナルの回答も日本語 ]
- ・ 現在履修しているコースの説明だけでなく、「インターナショナル・バカロレア」のコースについても知る事が出来、良かったです。(Gr.10 保護者、他)[ J ]
- ・ (HPを見て)授業中の教室の外の廊下にいるような気がします。(Gr.10 保護者、他)[ J ]
- ・ 息子は宿題を再確認するために、ほぼ毎日<Hara Sensei's Home Page>を開いているようです。母親として、サポートといえるかどうかは分かりませんが、(HPをチェックしないで)何もしないよりは遥かにいいのではないかと思います。(Gr.10 保護者)[ J ]
- ・ 実際の授業とタイムラグが全くなく常時的確にホームページに作品が掲載されているのに感心しました。安心感を持ちました。(Gr.10 保護者)[ J ]
- ・ 最近転校してきましたので、学校のことを知るのにとっても役に立ちました。(Gr.10 保護者)[ E ]

##### 要望；

- ・ 生徒が読むことが出来る短い読み物があるといいと思う。また、漢字の書き順を知る事が出来るサイトへのリンクも載せてほしい。(Gr.7 保護者)[ E ]
- ・ 娘にとって漢字の学習はとても大変です。毎週の試験に加えて、漢字学習のモチベーションを高める工夫がもっと必要だと思います。(Gr.7 保護者)[ E ]
- ・ より視覚に訴えるために、授業風景などのデジタルフォトをもっと掲載してほしい。(Gr.10 保護者)[ J ]

#### <Hara Sensei's Home Page> にアクセスしなかった保護者の理由；

- ・ 学年の始めに2回ほどアクセスしましたが、その後も宿題など更新されていると知りませんでした。(Gr.5 保護者)[ E ]
- ・ 転校してきたばかりで、先生のホームページがあることを知りませんでした。(Gr.6 保護者)[ E ]
- ・ 自分では、コンピューターを使った事がなかったため、アクセスできませんでした。(Gr.10 保護者)[ J ]
- ・ 11年生という年齢から、親がいちいち子供の学習態度をチェックする必要はないと思っており、日頃の宿題はその時々をサポートしているのでおおまかに何を勉強しているかは把握しています。とは言うものの、ホームページをチェックしていなかったことによって、多くの情報をミスしてきたことを今になって大変反省しております。来年は、是非活用したいと考えています。(Gr.11 保護者)[ J ]
- ・ 子供が宿題をチェックしているのは知っていましたが、それ以上の情報があることを知りませんでした。(Gr.11 保護者)[ J ]